

住みよいたけし

住みよ武石をつくる会広報

第35号

2023年2月16日発行

事務所 武石地域総合センター内

TEL:0268-85-2511

<https://www.s-takeshi.jp>

印刷 中澤印刷株式会社



2023年 初日の出

武石山岳会（長尾久幸会長、会員30名）では、40年前から毎年独鉦山（標高1,266m）の元旦初日の出登山を続けてきています。

午前5時、西内平井の皆さんが管理している千本桜園から、真っ暗な沢筋の道をヘッドランプの明かりを頼りに1時間30分で頂上へ。

極寒の中で待つこと数十分、午前7時群馬県境の荒船山のやや右から2023年の初日が姿を現しました。今年は天候に恵まれ、思わず息をのむほどの美しいご来光を拝むことができました。

20～30年ほど前は会員10人以上のほか塩田側からも含め30人以上が登ってきましたが、今年は山岳会員2名のほか全5名だけが味わう感動の瞬間でした。



1月15日、余里地域の皆さんが集まり
どんど焼きが行われました。

診療所奥泉医師との意見交換 つくる会 健康福祉体育部会

健康福祉体育部会では、昨年11月28日、武石診療所長奥泉先生と今後の診療体制や在宅医療について懇談し、部会員など20名が参加しました。

つくる会委員からは「在宅での死の看取りは今後どうなるのか。診療所でのリハビリは充実されるのか。診療所は身近な医療機関・かかりつけ医としての住民の期待が大きい。今後の方針は。将来、オンラインでの診療の可能性はあるのか。」などの質問がありました。

先生からは、

先生からは、

- ①依田窪病院、信州大学の4人の医師で診療を行うことにより、医師の負担軽減を図るとともに、整形外科、内科、総合診療などの専門的診断も可能になった。毎日違う医師ということで患者の戸惑いもあるかもしれないが、一人ひとりの状況については電子カルテで共用され、病気の専門的な掘り下げも可能になる。
- ②時間外に電話で対応している宅直制度は、実質2.5人の看護師が窓口になっており負担が大きく廃止となるが、カルテを依田窪病院と共有することで夜間などの診療依頼にも適切な対応が可能になる。

などの説明があり、状況を見ながらより充実した地域医療の充実を図りたい、また住民の健康への想いも医師に寄せてほしいと話されていました。



つくる会委員からは「在宅での死の看取りは今後どうなるのか。診療所でのリハビリは充実されるのか。診療所は身近な医療機関・かかりつけ医としての住民の期待が大きい。今後の方針は。将来、オンラインでの診療の可能性はあるのか。」などの質問がありました。

空き家対策勉強会

つくる会の取り組む課題の一つに、人口増と空き家の活用があります。産業経済部会、ふれあい交流部会では、市の担当者を招いて11月17日に市の空き家対策について2回目の勉強会を開催し、30人ほどが参加しました。

過疎・高齢化が進むとともに空き家が増え社会問題化してきています。一方で都市部からの移住希望者(特に30代など若い人)も近年増加傾向にあります。

武石にも百数十戸の空き家があるとされていますが、空き家所有者と買いたい人借りたい人をうまく結びつけられれば空き家の解消と、地域の活性化につながります。市では、こうした制度をまず多くの人に知ってもらい地域全体で考え、活用してほしいとしています。



武石にも百数十戸の空き家があるとされていますが、空き家所有者と買いたい人借りたい人をうまく結びつけられれば空き家の解消と、地域の活性化につながります。市では、こうした制度をまず多くの人に知ってもらい地域全体で考え、活用してほしいとしています。

武石八景案内板設置 自然・生活環境部会

つくる会は、江戸時代上田藩の郡奉行相馬与右衛門通孝が詠んだ和歌8首「武石八景」にちなんだか所に案内板を設置する事業を進めています。

12月6日(火)、その3番目、4番目となる案内板が上本入大布施の市指定天然記念物ひがん桜脇と下本入長尾橋脇に設置され、除幕式が行われました。



設置された看板 ひがん桜と横沢を望む

横沢を望む大布施には

冬の日^{こおりぶぎょう}は早暮れながら降り積もる

雪に明るき横沢の峰

長尾橋には

秋の夜の長尾の露に立ちぬれて

妻恋う鹿の声呼ばるなり

の2首の案内看板です。

Xmasマルシェ開催 かじかや

クリスマスイブの12月24日、下武石のラーメン店かじかやではXmasマルシェが行われました。前日の大雪で、予定していたハーモニカ演奏やバルーンアートなどの出演者が来られなくなりましたが、焼き芋や手作り小物店などが並び、この日オープンした番所ヶ原スキー場客や家族連れが立ち寄っていました。



おばあちゃんとマイコースター作りを楽しむ

森厳な余里東替の石尊様 II

郷土史家 児玉卓文

石尊様とはどんな神様・仏様なのでしょうか。

石尊様は「石尊権現」のことです。相模平野の中央に聳える大山（1252m、神奈川県伊勢原市）に対する信仰と修験道の信仰が融合した、いわゆる神仏習合の神様です。

古代に大山をアフリノカミとして祀る社（阿夫利神社）が山麓にあり、奈良・平安期に神聖な山の中が仏教者の修行場として開発されて「大山寺」が創建されると、山頂の磐座（神が宿る岩）が石尊権現として大山寺本宮（石尊社）となり信仰されました。

神仏習合では、日本の神は仏や菩薩が仮に姿を日本に現わした（権現）ものと考えたので、それぞれの神には本地（インド）の仏や菩薩がありました。石尊権現の本地仏は「十一面観音菩薩」ですが、大山寺は「不動明王」を本尊とする不動堂が本堂でした。

大山は雨降り山とも呼ばれたように本来は農業神なのですが、江戸時代の18世紀後半以降には、大山御師（元修験者）の活動により、各地に大山講（石尊講）が作られ、関東はもとより信州にも拡大し、庶民は雨乞い・五穀豊穰・家内安全・商売繁盛などの現世利益を求めて「大山詣」を行うとともに、石尊様を勧請して、お札を納める石祠や石尊権現の文字塔・不動明王像を建てて信仰しました。

江戸の町の人々にとって大山は、江の島と並ぶ近郊の観光地で、石尊権現と記した大きな木刀を担いで大山に参詣する浮世絵に見られるように、頼朝の戦勝祈願の古事に由来する、木刀を納めて以前に納めた木刀を持ち帰る「納め太刀」も流行しました。

上田小県地域の石尊信仰はどんなだったのでしょうか。

自治体の石造文化財調査書で、石尊権現の石祠や文字石塔の存在を見ると、烏帽子山麓の旧東部町地域はほぼ江戸期の村単位にあります。真田の傍陽地区では天狗平山頂に祀られ、麓の田中・横道には参道として石燈籠があります。丸子地域は、特異な場所に祀られたものが見られます。以外にも最も降雨量が少ない塩田地域には見られず、青木地域にもありません。

旧東部町の石尊様は、石祠や文字石塔が大部分ですが、それに舟形の不動明王像が並ぶものが数か所あり、不動明王像だけで「石尊講中」と記しているものも見られます。

東御市には石尊様に関係する指定無形文化財が

二つあります。一つは「金井の火祭り」で、7月27日に「石尊大権現 金井村中供養 寛政九年（1779）」と刻まれた文字石塔の前の辻で行われます。金井集落は、「戌の満水」と呼ばれる寛保2年（1742）の山津波で村が壊滅し、生き残った人たちが500mほど東の場所に再建した集落です。別名「石尊の火祭り」とも呼ばれ、雨乞いや虫送りの火祭りに「戌の満水」の犠牲者の慰霊が重なった行事とされています。

もう一つは「石尊さまの納め刀」です。祢津東町の石尊大権現の拝殿（金毘羅様と合殿）には、「石尊講」の代表が木刀を持って大山にお参りに行き祈禱を受けて持ち帰った木刀が、天明元年（1781）から今日まで大小約160本が奉納されています。拝殿の背後には石祠と舟形不動明王像が並んで祀られています。

東御市の石尊信仰は安永年中（1772～）頃から盛んになるようです。



東御市祢津東町の大日堂境内の石尊権現拝殿(左)

中丸子と長瀬の依田川沿いには、「石尊河原」という字があります。

中丸子は、旧鐘紡の食堂西辺りに石祠を建て講中で祀っていましたが、明治末年に大國諏訪神社に移し現存しています。

長瀬は雷電の「石尊の辻」で知られる場所で、新幹線高架下横の特電工場に当たります。安永年間以降、石尊様を祀る2～3%の森があり、鹿島神・水天宮・二十三夜神も祀られていました。明治29・31年洪水で3分の2が流されたため、神社を移し残った社地は森を伐採して農地としました。昭和16年、皇紀2600年記念で神社を旧地に再建しましたが、同25年特電の工場用地として社地を売却し、その後の工場拡大により隅に寄せられ、現在は高架下に「阿夫利神社」の神額を掲げた小さな社が建てられています。

東御市や丸子の例を見ると、石尊様は「雨乞いの神」というだけでなく、「水に関わる災害を除く神」として祀られたようにも思われます。

武石を盛り上げる
人々グループ紹介

武石の人々 団体

皆さんは「社協」という名前に馴染みがあると思いますが、「社協」は「社会福祉協議会」の略称で、社会福祉法に基づき全国の都道府県、各市町村に設置されています。

「社会」、「福祉」という文言から、法律・制度による公的なサービスを行う役所と思われるがちですが、社会福祉協議会は、住民主体を基本として、地域福祉を推進する中核的な団体として作られた民間の非営利組織（社会福祉法人）です。

「地域福祉の推進」とは、「共に生きる豊かな地域社会づくり」のため、地域住民の皆さんと緊密に、より身近な所で色々な福祉の向上（即ち「幸せの向上」）を目指す、地域に密着した活動です。

地域住民の皆さんが抱える様々な生活上の問題を、一緒に考え、話し合い、協力して解決を図るのが、社会福祉協議会の活動の原点です。

上田市社会福祉協議会は、総務課、地域福祉推進課、上田、丸子、真田、武石の各地区センターなどで組織され、総職員数が168人、武石地区センターには、下記の3部署に6人の職員の方々が働いています。



武石地区センター職員の皆さん

武石地区センター

- 地域福祉係
- 武石ボランティア地域活動センター
- 武石地域包括支援センター

「地域福祉係」は、地域ふれあい事業の推進、住民支え合いマップの作成・更新、各種資金貸付（生活資金、教育資金、福祉資金）、各種相談（法律相談、心配ごと相談、結婚相談）、などの事業を行っています。「武石ボランティア地域活動センター」は、地域のボランティア活動に関する理解と関心を深めることを目的に、人材の育成・支援、ボランティア活動をしたい人とボランティアを必要とする人との連絡調整、などを行っています。



上田市社会福祉協議会 武石地区センター長 柳原 渉さん

「武石地域包括支援センター」は、地域住民の皆さんが住み慣れた自宅や地域で生活できるように、必要な介護サービスや保健福祉サービス、その他日常生活支援などの相談を行っています。

（注：「武石地域包括支援センター」の詳細い内容は、次回の広報でお知らせします。）



フードドライブ活動（令和4年7月23日）

現在、武石地域では色々な福祉活動団体で、高齢化や新規加入者が無いために組織の維持が困難となり、活動を停止してしまうという状況が発生しており、活動団体の継続をどの様にするか、また新規加入者をどの様に増やすかが課題となっています。

柳原さんは、「社協が地域の中にもっと入って、自治会役員、民生児童委員、福祉推進委員の皆さんなどと懇談をしながら地域の状況を把握する場を設けたいと考えています。また、ボランティアをやりたい人、団体に参加したい人など、新規人材の発掘をして行きたい」と話していました。

「武石は住民の皆さんの結びつきが強い地域です。色々な住民交流をして、お互いに支え合う、住み心地のよい地域で生活をしてほしいと思っています。どんな事でも社協の方に声をかけていただき、気楽に相談をしてほしい」とのメッセージを頂きました。

【問い合わせ先】

上田市社協 武石地区センター 電話：85-2466
（武石地域総合センター 2階）